

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・猛暑のため飲料やアイスクリームが良く売れており、たばこの販売増とあいまって売上は順調である。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・タスポカードの効果がまだ続いている。カードの普及は限定的であり、店頭でたばこを買う客は依然として多い。
	やや良く なっている	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・タスポカード効果によるたばこの売上げが続いている。また、猛暑の影響からアイスクリーム、飲料、冷めんなどの売上は前年比130%と好調であった。来客数は同120%、全体の売上は同115%と久しぶりに活気があったが、相変わらず主力の中食は苦戦が続いており、また比較的好調だった菓子類も前年並みに低下しており、猛暑効果がなければ厳しかった。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・たばこの店頭売上がタスポカードの影響で前年比60%増加し、全体の売上でも好調に推移している。ただし、利益の大きい弁当やすしの売上は前年比横ばいか微増にとどまっている。
		その他専門店 〔医薬品〕（営業担当）	来客数の動き	・来客数が前年比105%と増加している。客はガソリンの高騰から車での外出を控え、近くのスーパーやドラッグストアでの買物が増えている。
		都市型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・高単価のステーキハウス利用客は伸び悩んだが、他のレストランはテレビ企画商品等でファミリー客を中心に回復した。また、客室稼働率の上昇もあり、全体では前年同月を上回る見通しである。
		タクシー運転手	来客数の動き	・平日は依然として低調である。しかし、梅雨明けが例年より早く、真夏日が続いたため、週末には若者向けのコンサート、花火大会、地域ごとのイベントなどが盛況で、タクシーの利用が多かった。
		その他レジャー施設（職員）	来客数の動き	・入場者数が前年を上回っており、特に子どもが増えた。
		変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き
	スーパー（店長）		単価の動き	・客は食品の値上げにも慣れ、買物態度に落ち着きが見られる。しかし、土用の丑の日のうなぎは従来、前後の日も売れたが、今は当日しか売れない。また2、3尾買っていた客が1尾にとどめ、しかも国産品を求めている。
	家電量販店（経営者）		販売量の動き	・猛暑によりエアコンの売上は前年の2倍以上となったが、他のほとんどの商品は前年並みか前年割れである。
	家電量販店（店長）		来客数の動き	・来客数はここ2、3か月横ばい状態である。また月によって高単価商品が動くときもあるが、大きな変動はない。
	乗用車販売店（経営者）		お客様の様子	・客は新型車や限定車等に一応の関心は示すが、購入には結び付かない。やはり先が見えない景気や経済状況がそのまま顧客心理に表れている。
	一般レストラン（スタッフ）		来客数の動き	・夏休みがスタートし、ショッピングセンターなどあらゆる集客施設、飲食店でキャンペーンが始まった。この相乗効果で3連休は好調に推移したが、7月全体ではほぼ横ばい状態である。
スナック（経営者）	来客数の動き		・売上は前年比15%減少している。従来、仕事量の多かった会社でも売上が急激に落ち込んだという客の声がかかる。そのほか事業の縮小、リストラ、原材料高など、暗い話題が多い。	
旅行代理店（従業員）	販売量の動き		・東海北陸自動車道の全面開通により、団体旅行の前倒し受注があり、販売量は前年並みである。	
通信会社（営業担当）	来客数の動き		・例年であれば、ボーナス時期とからみ、携帯電話の販売台数は増加するが、今年是他社の新モデルの影響もあるのか、来客数が伸び悩んでいる。	
住宅販売会社（経営者）	お客様の様子		・引き合いや問い合わせなど、客の反応が3か月前と比べて変化がない。	
住宅販売会社（従業員）	それ以外		・受注残は前年同期並みに推移してきたが、完成工事高では受注残を食いつぶしており、受注は厳しい。	

やや悪くなっている

商店街（代表者）	販売量の動き	・昨年オープンした再開ビルの影響で、通行量は前年比2割増加しているが、売上につながっていない。高齢者向けに買いやすい価格の商品を販売している店舗などが善戦している以外は、全般に厳しい。
商店街（代表者）	来客数の動き	・ガソリン価格の高騰や猛暑の影響などから、入出が極端に少なくなっている。また必要な物しか買わないため外出機会の減少傾向も見られる。高額品の売行きが悪く、客単価の低下から売上減に苦しむ商店が多い。
一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・客の買物態度、購入量、客単価共に厳しくなっている。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・シニア客のセット販売が減少している。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・例年、梅雨明けの時期から一気に真夏モードの販売になる。しかし、今年は婦人サンダルの再値下げをしたにもかかわらず、客は一向に乗ってこない。客はファッションより食品やガソリンの支出を優先しており、生活防衛が続いている。
スーパー（店長）	単価の動き	・来客数に大きな変化はないが、客の財布のひもは明らかに固くなっている。商品ごとに多少の温度差があり、米や冷やし中華などの生めんは売れているが、果物や菓子などの嗜好品は低調である。
スーパー（営業担当）	お客様の様子	・他社のチラシやメモを見ながら買物をしている人が見られる。必要な物しか買わないという態度が更に強い。
スーパー（副店長）	単価の動き	・来客数は前年の102%、客単価は同100%である。
衣料品専門店（総括）	来客数の動き	・車での来客数が減っている。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・販売台数は受注残に助けられ、前年並みを確保する見込みであるが、総受注台数では悪い。ハイブリッド車の売行きは他の車種を上回り、受注台数の記録を破るほどであるが、他の車種の受注は極めて悪い。やはり燃料の高騰が大きく影響している。
乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・ガソリン価格の高騰に加え、諸物価の上昇が広がっている。メディアの報道も連日のように流されるため、消費者の購買意欲が盛り上がり、車両販売にとって環境が悪すぎる。
乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・販売台数、来場者数共に前年に比べ極めて悪い。
乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・ガソリン価格値上げによる車の買い控えの影響が大きく、車の販売台数は前年に比べ大幅に減少している。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・大手の建設業者の民事再生法申請により、下請業者や関連会社が大きなダメージを受け、銀行も接待等を自粛している。料亭部門では法人利用が大幅に減り、また個人の利用も5月以降大幅減が続いている。ポイント2倍キャンペーンで大量のDMを発送したが、前年比93%の集客にとどまっている。
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊、レストラン、宴会部門共に前年比、前月比で減少している。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・夏期商品の売上は国内、海外共に前年を大きく下回っている。
タクシー運転手	販売量の動き	・物価上昇により、客の節約対象はタクシー利用に向けられ、売上が減少している。
競輪場（職員）	単価の動き	・売上金額、入場者数、1人当たりの購入金額共に減少している。
美容室（経営者）	来客数の動き	・前年に比べ来客数の減少が続いている。客は物価の値上がり対策として来店回数を減らし、また安い店に足を向けているとしか思えない。
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・ガソリンや食品価格の高騰に加え、サブプライムローン問題もあって、住宅ローンの返済面では客に慎重な姿勢が見られる。また、住宅ローン減税が年末に切れるが、今すぐに家を建てて利用しようという動きが見られない。
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・地元ゼネコン倒産の影響を受け、客の動きが鈍くなっている。

悪く なっている	一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	お客様の様子	・複数の料理店に聞いても、来客数の減少、客単価の低下を口にしている。客はガソリン価格高騰から外出を控え、財布のひもは確実に固くなっている。	
	一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・学生などは夏休みに入ったが、いまだに来客数が増える気配が見えない。	
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・暑さが厳しいため、客の消費マインドが落ちている。さらに、月末の豪雨災害により、買物に対する意欲が全く感じられない。	
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・婦人服の売上は前年の9割弱で、ヤング、ミセス共に悪かった。クリアランスも単品買いが多く、まとめ買いが少なかった。	
	百貨店（売場担当）	単価の動き	・各メーカー共に価格を意識した商品を投入している。現実には価格の低下した商品の動きは良いが、前年と同じ価格帯の商品の動きは悪い。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・客の購買は食品、日用雑貨等が主になり、ファッション、住居、余暇商品が売れなくなっている。先行き不安のなかで、原材料高騰による商品単価の上昇やガソリン価格の値上がりから、消費動向は明らかに生活防衛型になっている。	
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・バーゲンに期待していたが、バーゲンでも客単価が低下している。	
	自動車備品販売店（従業員）	販売量の動き	・先行き不安、燃料費高騰などから、客の消費意欲はますます低下し、必要な物しか買わない傾向がより強くなっている。	
	住関連専門店（店長）	お客様の様子	・店舗改装のため売りつくしセールを行っているが、客は安い商品や割引の大きい商品を探し、また値引要求をするなど、厳しい態度が見られる。	
	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・中元売出しは売上、利益共に過去最低である。	
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・能登半島地震の影響で利用客が減少した昨年に比べ、更に数パーセント悪化している。個人・団体・グループ客共に悪いが、特にガソリン価格の高騰の影響が、マイカー利用の個人客の減少が目立つ。	
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・客の動きがなく、また新規見込み客が取れない。		
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	
	やや良く なっている	税理士（所長）	受注量や販売量の動き	・取引先の様子を見ると、量的にはある程度の受注を確保しているが、価格面では原材料高などで厳しい状況である。中小製造業では徐々に明るさが見えている。
	変わらない	輸送業（配車担当）	受注価格や販売価格の動き	・軽油価格は8月も更に値上がりする。徐々に運賃値上げを実施しているが、価格上昇分を吸収できない。
	やや悪く なっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が前年に比べ大幅減となり、また原材料や燃料の値上がりで経営環境の厳しさが増している。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量は減少している。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・ここ10か月低迷していた販売量が更に悪くなっている。また、原材料の値上げも続いている。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内の機械受注が厳しい状況となっている。引き合いはあるが、先行きの不透明感から客も決断を迷っている。
		電気機械器具製造業（経理担当）	競争相手の様子	・電子部品関連商品でも消費者の購買意欲が落ちているため、取引先が新製品の発売をためらっている。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・国内眼鏡枠市場では、ユーザーのいわゆる低価格ショップへの移行が続いており、百貨店系などでの販売量は完全に落ち込んでいる。小売・問屋系の在庫調整の影響もあり、国内商品の受注水準は比較的低レベルである。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・電話機設備の更新を見送る客が多くなり、7月に入ってから受注量が減少している。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・折込チラシに関するデータはすべて前年比マイナスである。

	悪く なっている	食料品製造業 (企画担当)	それ以外	・原材料の高騰が続いており、直近では前年比3割アップし、年明けには2倍の価格になるとみられる。加えて、原油高騰から燃料費が5割増加し、関連する包装資材費も2割増と企業努力だけでは到底回復できないほど収益が悪くなっている。
		建設業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・行政、特に市町村レベルでは指名競争入札に対する批判を避けたいという考えから、一般競争入札に大々的に移行した。この結果、施工能力も施工体制も持たない業者の入札参加を招き、不毛な競争から受注価格では予定価格の20%、25%引きが普通になった。
		建設業(総務担当)	それ以外	・相次ぐマンション分譲業者の破産により、受注先の選別から有力業者への受注が集中し、一段と価格競争がし烈となっている。一方、建設資材の価格上昇により採算はますます厳しい。
		輸送業(配車担当)	取引先の様子	・原油価格高騰の影響から製品や輸送コストが上がり、全体の荷動きが鈍っている。
		金融業(融資担当)	それ以外	・建設業での大型倒産や河川はんらんによる災害が関連企業に大きな影響を与えている。
		司法書士	取引先の様子	・債務整理の相談が引き続き増えている。個人、法人共にこれまでの返済が難しくなったという声が多い。
雇用 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	-	-	-
	変わらない	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・4月の新卒採用や正社員の定着などで、求人数は増えていない。派遣の需要も減っている。
		学校[大学] (就職担当)	求人数の動き	・求人数は前年度と変わっていない。
	やや悪く なっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・新入社員が入社後3か月経過したことに加え、景気の後退見通しもあり、派遣契約の終了が多くなっている。また、新たな派遣需要もかなり弱くなっている。一方、派遣料金の値上げはなかなか進まず、収益確保は極めて難しい。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・3か月前と比べ、情報誌1回の発行につき50件程度の求人数が減っている。
		新聞社[求人 広告](担当者)	求人数の動き	・求人広告の出稿量は前年同月の6割弱である。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求人数は前年同期比11.1%減少した。特に建設業、製造業での減少が目立つ。
		民間職業紹介機 関(経営者)	周辺企業の様子	・自動車関連企業では、減産のため社外ラインスタッフの減員が進められている。次は間接部門でも減員計画があるという話を聞いている。
	悪く なっている	新聞社[求人 広告](担当者)	求人数の動き	・法人の採用予定数において、団塊世代の大量退職を補う年次に差し掛かるにもかかわらず、県内は軒並み低調である。景気の不透明感や原油高が人員採用計画に大きな影響を与えている。